

Monthly Report

2017年4月号

特集
スマホ運転の危険

春は、入社や転勤などで、仕事や生活の環境が変わる季節です。慣れない環境で焦りが生じると、ついつい、カーナビやスマホを注視し、大変危険な運転を行ってしまうおそれがあります。

スマホが、平成26年末時点の世帯普及率で64.2%と、広く社会に普及してきたことから、その取り扱いを原因とする交通事故も増えています。

今回はスマホ運転の危険に焦点を当て、危険の回避を学習しましょう。

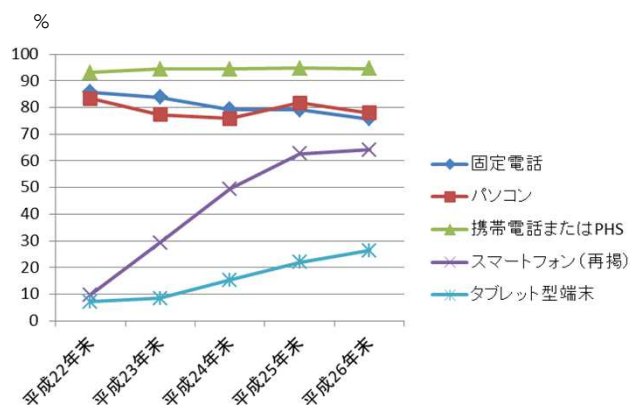


図1 情報通信機器の世帯保有状況 *1

*1 総務省 「平成26年通信利用動向調査ポイント」のデータを元に当社作成

1. 画面注視になりがちなスマホ運転

携帯電話等の使用による事故件数も、スマホが普及するのに伴い、通話目的より画像目的の方が増え、その他の動作を含めた全体の事故件数も大きく増加しています。(図2)

スマホ利用は、小さな画面に表示される情報を処理しようとして、画面を注視することになるため、改めて運転には大変に危険であることが窺えます。

画面を注視した運転は、道交法違反であり、画面注視からの信号無視により、人身事故を起こした場合、危険運転致死傷罪を問われる可能性も否定できません。

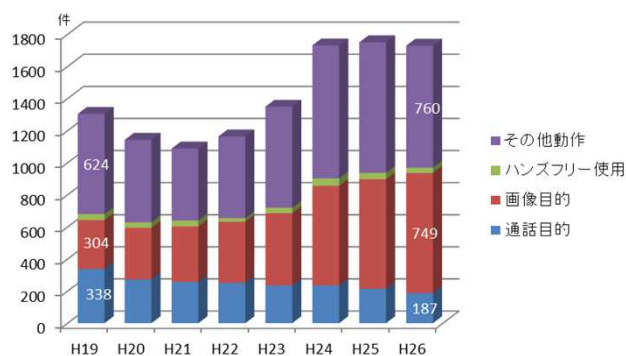


図2 携帯電話等の使用状況別の事故件数の推移 *2

*2 ITARDA第18回研究発表会テーマ論文
「携帯電話等の使用が要因となる事故の分析」
https://www.itarda.or.jp/ws/pdf/h27/18_02keitai.pdf
のデータを元に当社作成



SOMPO ホールディングス
損保ジャパン日本興亜

2. 貴方は目を閉じて運転できますか？

図3のグラフは、交通事故における携帯電話等の使用要因別の分析を示したのですが、「脇見運転」では、画像目的の使用が通話目的の使用の2倍以上、非使用と比べると4倍の構成比になっています。

そもそも、ヒトの脳は、1つの事に注意を集中していると、それ以外の知覚情報に鈍感になる性質(非注意性盲)があり、スマホ運転では、この非注意性盲、つまり「見えているが認知できない」状態が発生しているのです。

スマホ運転を、目を閉じて運転しているのと同じように危険と認識すれば、たとえ少しでも絶対やらないように行動が改善されると思います。

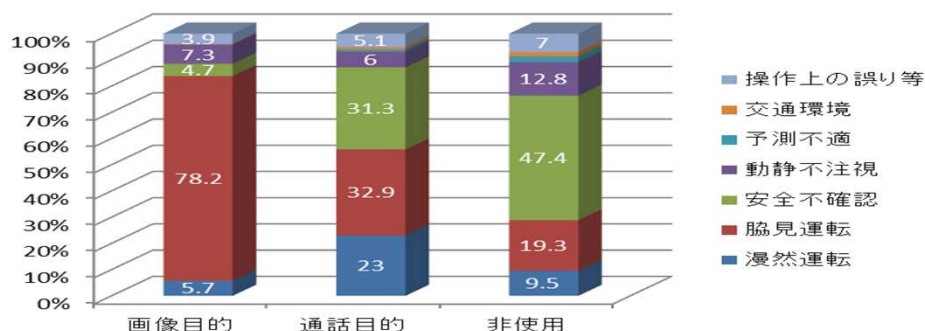


図3 携帯電話等使用状況別
四輪車運転者の人的要因の割合(H19~26年合計) *3

*3 ITARDA第18回研究発表会テーマ論文
「携帯電話等の使用が要因となる事故の分析」
https://www.itarda.or.jp/ws/pdf/h27/18_O2keitai.pdf
のデータを元に当社作成

3. スマホの電源を切って安全運転

生活に密接に関わるようになった便利なスマホですが、一方ではスマホ依存症という言葉も生まれています。無意識にスマホに反応することのないように、運転中は、マナーモードではなく、電源を切る勇気と計画性を持ち、安全運転を実現しましょう。



SOMPO ホールディングス

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1

ホームページ <http://www.sjnk.co.jp>

時間に余裕をもって、
「お・も・い・や・り」のある運転を！
みなさまの無事故を願っております。

エヌエスサービス（株）一同